

刈取り時の水田です。台風19号の接近の予報もあり、忙しげに作業が進んでいました。先週は台風18号、平塚市の降水量は73mmを記録し、寺田縄では一時道路が冠水した所も出ました。今回、被害が出ないことを願っています。



■ コンバインによる刈取りです。

稲は整然と植えられていました。

コンバインで刈取るために、苗床にたねモミを播きつける時から、規格ができています。

勿論、田植えも機械です。



コンバインの横を見てください、刈取られたイネが横たおしにされ、後ろへ送られて行きます。ここで、脱穀され、モミ米が穂から離されます。

コンバインの中にはモミ米がブールされ、イネはコンバインの中できざまれ、又は、^{たば}束ねられ、田圃に置かれます。





コンバインの入る田圃の隣に民家が建ち、畑とも隣り合わせです。近郊農業の特徴でもあります。

畑には、ザル菊、白菜、大根、サトイモなど、いずれもこれからが楽しみです。



コンバインできざまれたイネです。田圃に残されます。本来はコンバインの移動とともに残されるので、田圃にはほぼ均等にまいたようになります。

写真では不揃い^{ひら}いです。台風 18 号の降水で田圃には多くの水が溜まり、水や風に流されたイネが不均衡に残されました。



コンバインで束ねられたイネの束です。

田圃に置かれたままになっていますが、後で乾燥させ、利用されると思います。



ご主人がコンバインを走らせ
イネの刈取りを行います。

農道の軽トラ脇にご婦人が待
機しています。

ご夫婦での農作業です。



コンバインの前部の爪の間に
イネが入り刈取られます。

イネが規則正しく植えられて
いないと機械におさまりません。

刈取りが不都合となります。



コンバインに設置された筒を
通って脱穀されたモミ米は、軽ト
ラに移し替えられます。その後、
軽トラはご夫人の運転で家をめ
ざします。夜、モミ米は乾燥機に
かけられます。

残ったご主人は作業を続け、こ
の田圃が終了すると他の田圃の
収穫に向かいました。

■ イネの天日干し・稲わらの乾燥



穂を逆さに掛けています。太陽をいっぱいうけ、乾燥も早まり、美味しいおコメになるでしょう。



穂を上にして、向い合せ、田圃に直接立てています。色の濃い部分が稲穂、おコメになります。

天日干しにもさまざまなやり方があります。



前にも紹介した、稲わらの乾燥です。

モミ米はコンバインによって田圃で脱穀が終わっています。

並べ方に意味があるのでしょうか、規則正しく、まきがくもよう幾何学模様を思わせます。



脱穀^{たっく}の終わったイネを乾燥させていますが、よく見ると、イネには緑色が残っています。

台風を避けて「青田刈り^{あおたが}」だったか？

作業^{かた}の方が「もち米」のイネと教えてくれました。正月飾りに使うイネだそうです。本当は、稲穂が出る

前に刈取り^{かじほ}陰干しするのが良いそうです。普通のイネより背が高く、しなやかでお飾りを細工するのに適しています。



珍しいワラの積み方です。

古い写真では、この方式で背丈より高く積み上げられた積みワラを見ましたが・・・

記憶を甦ますように仲良く並んでいます。

田圃一面にきざまれたワラが広がります。そこをトラクターで耕して行きます。収穫の終えた田圃がすぐ畑に代わり、冬の野菜を栽培します。

二毛作です。平塚では、有名だった「ムギ」の栽培は少なくなりました。

田圃は一年中休むことはありません。





刈取られた株から緑色の芽が出ています。「ひこ生え^ほ」とも云われます。刈取られてから2週間ほどたっています。

残念ですがおコメにはなりません。

田圃の中に見られる白い筒は、田圃の下まで続いています。「暗渠排水^{あんきょはいすい}」の調節弁^{ちょうせつべん}です。弁を開き田圃の水はけを良くし、乾燥を早め、畑に転用します。

金田村の「暗渠排水」事業は、昭和12年から戦後の25年の春にかけて完成しました。長期間にわたる大事業でした。

■ 田圃の「サギ」たち



コンバインで刈取りを進めると、「サギ」が群れてきます。

イネが刈られ、田圃にいた「アマガエル」が飛び出していきます。

「サギ」にとって格好^{かつこう}の餌^{えき}になります。

このように飛び立つこともあり、自然の真っ直中^{まっしぐら}にいる実感にひたります。

(この2枚は昨年の撮影です)





■ 台風一過 朝の散歩です

台風 19 号は早足に走り去り、寺田縄には大きな被害はありませんでした。早朝、田圃を見に出かけました。台風一過の言葉通り、写真のように晴れ渡り、暖かく気持ちの良い朝でした。



空気が澄むと富士山はこのように見えます。

水田に水が張られ、^{きなえ}早苗が植えられた、春先の写真 ではありません。

「ひこ生え」が伸び、台風が季節を一変させたように見せました。

相模の大山は北の方角になります。

畑には昨日の降水で水をたたえ、「さかさ富士」ならぬ「さかさ大山」が見て取れます。

この山容は、昔、相模湾を航行する船の目印になっていたそうです。





台風の風雨の跡はイネを波打たせ荒波のように見えます。

このままでは刈取りは困難です。特別の処方があるのでしょうか？

遠くに箱根の外輪山とふたご山が見えています。南西の方角です。



一週間前の台風 18 号で、田圃の淵にためられた、きざみ稲ワラが、あぜ道を乗り越え側溝に流れ込んだ跡です。

きざみ稲ワラは田圃に耕されることになっていたのですが・・・

訂正： 「ぶらり散歩 9月30日」

① 年度 平成12年 → 平成26年と訂正

② p2 ◆ 早めに刈り取られました

・・・脱穀（籾粒を稲穂から取り外す・米粒から籾殻を取り外す）を水田の上で行ないました。

→ （米粒から）を（籾粒）と訂正

（籾粒から籾殻を取り外す）作業は、「籾摺り」とも言われ、コンバインではなく、農家での作業になります。

（米粒から籾殻を取り外す）を削除してください。

籾殻を水田で燃やすのは、農家から持ち込まれた籾殻が燃やされます。

誤記により、お読みの方々を混乱させ、申し訳ございませんでした。お詫びいたします。